

つきたい力

- ①課題解決のために必要な情報を取捨選択し、整理する力
- ②データを収集・発信し、人や社会とつながる力
- ③主体的・探究的に学び続ける力

取組みの概要・ポイント

- ①図書資料の活用を通して、子どもたちが課題解決できるように、授業者や図書館司書と協働した授業づくり（学びとつながる学校図書館）
- ②子どもたちが日常的に本にふれ、読書意欲が高められるしかけづくり（読書に親しむ学校図書館）

具体的な取組みの内容① 学びとつながる学校図書館

「はがき新聞」の作成～各教科で実践～

はがき大の用紙に授業で学んだことや体験したこと、自分の考えをまとめ、新聞形式で表現する活動を各教科で実施した。文章だけでなくイラストや図表、写真などを入れて自由につくることができ、子どもたちの「書く力」や「表現力」の育成につながる。



今年度の全国学力・学習状況調査（国語）の結果より、「自分の考えを工夫して文章で表現する力をはかる問い」で、つまずきが見られたので、この活動を通じて改善につなげていきたい。
また、新聞を校内に掲示し、お互いの作品の感想を伝えあうなどして、友だちとの交流の機会を増やしていきたい。

「国調べをして、旅行計画書を作成しよう」（中1社会科）

授業者と一緒に単元計画を作成する中で、必要な資料を選択し、司書教諭の協力のもと、世界の国々についての図書を収集した。子どもたちが興味・関心をもてるよう1冊1冊の表紙が見えるように、またカテゴリー別に分けて資料を陳列するなど工夫をした。



図書資料を活用し、旅行計画書を作成した。完成した旅行計画書は一人一台端末（ロイロノート）を使って共有した。子どもたちが資料と向き合い、夢中で旅行計画書を作る姿を見ることができた。



具体的な取組みの内容② 読書に親しむ学校図書館

「読んでみたい」と思う図書との出会い

- ・おすすめ本 紹介コーナーの設置
→図書委員の生徒が自分の好きな本をイラストやメッセージを添えて展示
- ・「図書だより」「図書委員会だより」の発行
→図書館司書・図書委員の生徒が作成し、新着本やメディアセンターの利用方法について紹介
- ・ビブリオバトル（国語の授業）で自分が好きな本の魅力を紹介
→グループ別で好きな本の魅力を伝える予選を行い、グループの代表が全体でプレゼンテーションをして、チャンプ本を決定



人と図書、情報がつながる学校図書館「メディアセンター」

2024年8月末より、新校舎への移転にともない、学校図書館の名称を「メディアセンター」に。



- ・学校の中心に位置し、壁がなく、すぐに図書にふれられ、読んでみたい本や必要な情報を探することができる。また、開放的なスペースを活かして、仲間とコミュニケーションができる場になっている。



取組みを通しての子どもの変容

○生徒アンケートの肯定的な回答が向上した（R5年度3月→R6年度7月）

- ・「本を読むことが好き」（63%→69%）
- ・「わからないことや知りたいことがあったとき、図書館資料やインターネットなどで調べている」（74%→79%）
- ・「図書館資料などをもとに、自分の考えをまとめて書いたり、話したりしている」（85%→88%）

